

Public Interest Incorporated Foundation for Shiretoko Institute of Wildlife Management

設立財団ニュースレター

Vol. 14

2018年3月31日発行

■ 東京と札幌で「賛助会員の集い」を開催しました ■

知床自然大学院大学設立財団は、日頃お世話になっている賛助会員のみなさまにお集まりいただき、問題意識の共有や交流・親睦の輪を広げるために、東京と札幌でそれぞれ「賛助会員の集い」を開催しました。今回は2カ所で開催した「賛助会員の集い」についてご報告いたします。

首都圏賛助会員・支援者の会

日 時：2018年1月13日（土） 14時～
場 所：JICA 市ヶ谷ビル セミナールーム
（東京都新宿区市ヶ谷）
参加者：16名

当財団の鈴木幸夫理事が、昨年開催した「知床ネイチャーキャンパス 2017」の報告を行った後、自己紹介、フリートークで交流を深めました。
(2ページに家村理事の報告を掲載しました)



札幌シャチの会

日 時：2018年2月16日（金） 16時～
場 所：「夜会」
（札幌市中央区）
参加者：16名

小林三樹・北海道環境財団理事長を講師にお招きし、「知床の価値と将来展望」をテーマに講演いただいた後、自己紹介、フリートークで交流を深めました。
(3～4ページに講師の小林氏の寄稿を掲載しました)



首都圏賛助会員・支援者の会 開催結果報告

「知床ネイチャーキャンパス 2017」について、事務局作成の「結果報告」と入会案内パンフ3部を封筒に入れて全員に配布し、その後鈴木理事による報告が行われました。

また開会に先立って、この会は賛助会員でもある立命館大学名誉教授の唐沢敬先生が主宰する国際研究インスティテュートというシンクタンクの協力のもとで実施していることの説明をしました。

鈴木理事は、この「知床ネイチャーキャンパス」は昨年に引き続き第2回目の実施であり、今回のテーマは「知床で学ぼう 自然再生・自然復元」であることを説明、鈴木理事が自分で作成したパワーポイントの多数のスライドをプロジェクターでスクリーンに投影しながら解説し、臨場感ある報告が行われました。

とりわけ野外フィールドでの実習は、「河川生態系復元について専門的な解説が行われたその場で同時に森林再生や野生生物の解説も行われるなど格別な機会であった」というのは、まさにスライドを見ながらの説明があって初めて納得できる内容でした。

新年早々の開催だったため、どの程度の参加者となるか心配でしたが、16名の参加となりました。後半は自己紹介のあと質疑応答を予定していましたが、自己紹介を終えたところでちょうど予定の時間切れと

なってしまいました。しかし、参加者のみなさんそれぞれ、賛助会員になられた動機や設立財団に託す思いも様々であり、自己紹介の内容そのものが実に興味深いものでした。人と人とのつながり方も多様で多角的であることが大切であると実感させられました。

埼玉県からご参加の獣医師ご夫妻は生態系保護協会に所属し、外来種アライグマの捕獲や野鳥の調査などに取り組んでいるが、県の環境系の専門家が足りないという切迫した実情の説明などもありました。

また役員の側が設立へ向けた歩みが期待に沿っていないと説明したことについて、「できるだけ協力します」、「着実に一歩を踏み出している」、「長期戦です」といった発言が相次ぎ、逆に大変励まされました。

なお終了後は、三宅理事の手配により、たまたま市ヶ谷駅付近にあったオホーツク海ゆかりの「湧別町」という居酒屋で有志による懇親会を行いました。合計10名もの参加となりました。海の幸や、北海道の日本酒「男山」を酌み交わし、これもまた大変楽しく、有意義な機会となりました。

今後もより幅広く多数の皆さんに気軽に参加していただき、勉強会でありながらも夢のある愉快的語り合いの場にしていきたいと考えております。

(理事・家村充尋)



札幌圏賛助会員集会「札幌シャチの会」開催結果報告

札幌圏賛助会員集会「札幌シャチの会」報告については、講演者の小林三樹・北海道環境財団理事長より、ご寄稿いただきました。

■ 思わず話したくなる！知床のこと、自然のこと ■ ～知床の価値と将来展望～

北海道環境財団理事長 小林 三樹

1、知床の価値

知床に存在する大自然の絶対的価値に疑義を挟む者はいない。動植物種の豊富さに加え、重層的生態ピラミッド、陸海空を巡る栄養循環、地形・火山、瀑布などの紹介書や研究報告が多数出されている。固有性とか希少性など相対的価値についても、見事な映像が放送媒体等を通じて世界中に伝わるに従い、観光魅力は今後も益々高まるに違いない。

知床の生物相は、気候や地形の厳しさゆえに開拓され尽くされずに残った経緯もあるが、何とんでも日本列島とオホーツク海、千島列島・北太平洋との接点に位置していることが、動植物生態を豊かにしている大きな要因だと思う。

その豊かな食物堆の基盤には、これら海域の後背圏の広さがある。流氷とともにオホーツク海に栄養塩をもたらすアムール川の流域面積は、日本の国土面積の5倍の184万km²もある。オオワシやシャチもこの栄養塩にささえられた餌があればこそ来る。地元漁業

にとって敵である海鳥・海獣の保護を含む世界自然遺産登録を、地元自治体・住民・経済界の合意のもと取得した事実は、世界中で称賛されている。ともすれば経済優先国と看做されがちな日本で、知床に実現している現実の意味は深く大きい。

観光価値の評価は、より高い費用や犠牲を投じても観たり写真に収めたいと熱望する人ほど高い。文明化歴史過程でクマを駆逐し森を失った欧州諸国や地中海諸国、緑と水に乏しい沙漠国、平地だけの国、雪氷を見たことがない熱帯国、戦乱の絶えない国、人口集積高層化で空のない国などの人々にとって、知床の価値は、私達が思うよりもすこぶる高い。

食糧難時代の開拓史と離農跡地の取得・修復、100m²運動の経緯と「運動の森・トラスト」による継承などは、世界中の発展途上国の自然保護人材強化研修に格好の参考事例に違いない。

2、大学院大学開設への夢と現実

大自然生態の適切な管理に必要とされる研究の拠点を創成し、次世代を托す専門家を知床で育てようとの熱誠は、極めて真っ当で尊い願望と思う。この分野での人材が圧倒的に不足しているとの認識は、当設立財団に参画している方々に共通した想いであり、特にカナダや欧米の事情を熟知する方は、日本の遅れを痛感されていると思う。斜里町の総合計画に「自然大学構想」が盛り込まれた1986年の頃は、好景気で各地に大学が設立された。



学部を持たない「独立大学院大学」（専門職大学院など）設置が推し進められたのは 2003 年以降であった。「知床自然大学院大学設立財団」はこの独立大学院大学制度に依拠して 2013 年に発足している。本財団は、定員 40 名の修士課程（2 年間）の大学院を想定して設立したと聞くと、講義・研究指導と教務業務（カリキュラム作成・授業管理・入試・成績認定等）ほかの学務に、少なくとも 10 名の定住する教員が必要と思われる。また入学許可は、提示した指導内容を修了時まで実施する契約行為であるから、定員割れも途中閉校も、多大な財政負担になる。そのことだけでも、大学院開設は安易な想定では踏み切れない事柄だと思ふ。学生と教員の確保、財政見込み等につき、設立時との情勢変化を精査する必要があるのではないだろうか。

現在、国内では、限られた研究者・施設・フィールド・資金など研究資源を有効に生かすため、研究施設の大学間共同利用、複数大学での単位互換制度、連合

大学院制度などがある。当設立財団実施のネイチャーキャンパスの実績を拝見すると、大学院が構想した分野をカバーする錚々たる先生方が応援して下さっている。この先生方ご関係の大学院生の調査研究フィールドに知床を供することは、すぐにでも可能ではないか。複数大学の若い院生が知床で研究調査を共にすることは、院生諸氏にも地元にも多くの実りをもたらすに違いない。

知床では、1988 年に「公益財団法人 知床財団」が発足し、順調にその広範な活動を発展充実させておられる。知床での人材育成機関創設の夢は夢として、具体化を暫時保留するとか、知床財団など自然遺産管理・研究・支援組織との合流や、分野横断的な学協会への軟着陸なども考慮してはどうかと思う。

国立公園指定から半世紀余、知床保全に血のにじむような努力を重ねられた方々のご尽力に敬意を表しつつも、経緯を知らぬまま述べた他所者の勝手な妄言をお許し願いたい。

第 1 回例会講師

みつな

小林 三樹 氏

略歴

1938 年、北海道函館生まれ。1961 年、北海道大学工学部衛生工学科卒業（第一期生）。同年より東京都技師として東京五輪前後の都市環境改良に関わる。1968 年～2002 年、北海道大学工学部衛生工学科に在籍。道内河川環境調査、浄水技術、環境アセスメント、環境配慮まちづくり、環境リスク管理研究等に関与。その間、土木学会の企画、河川環境計画、環境問題研究、震災調査等の委員会活動に関与。2002 年 4 月～2016 年 3 月、藤女子大学人間生活学部在籍。藤女子大、小樽商大、北星学園大、武蔵短大などで自然環境・生活環境と社会・経済関連講義を担当。その間、道・札幌市の環境評価、都市計画、公共事業計画、森林管理、環境活動支援等に関わった。2003 年から北海道環境財団評議員・理事。2013 年から理事長。

予告 札幌シャチの会 次回開催は 4 月 20 日（金） 16：00～

- 講 師：飯澤 理一郎氏（北海道地域農業研究所所長）
- 開催日時：2018 年 4 月 20 日（金） 16：00～17：30
- 開催場所：「夜会」（札幌市中央区南 6 条西 4 丁目 G4ビル 10 階）
- 参加 費：おひとり様 500 円（資料代）

※参加費は当日会場で徴収します。

知床自然大学院大学設立財団のおすすめ本紹介



ぼくの村がゾウに襲われるわけ。

—野生動物と共存するってどんなこと？

岩井 雪乃 著

合同出版 (2017年) 1,512円

アフリカのタンザニアでは、野生のゾウが村を襲い、村人たちが命の危険にさらされています。その背景には、かつて暮らしていた大草原に「国立公園」や「動物保護区」がつくられ、「人がいない野生の王国」の周辺に村人たちが追いやられてきた歴史があります。ハンティング、観光、自然保護の考え方・・・立場の違いさまざまな人間の事情が複雑に絡み合い、自然の中で暮らしてきた村人の生活が崩れていきました。真に野生動物と共存するには何をどう解決すればいいのか。国内でもさまざまな獣害問題が起こっている今、改めて深く考えさせられる一冊だと思います。児童書のように読みやすく中高生にもオススメです。(事務局)

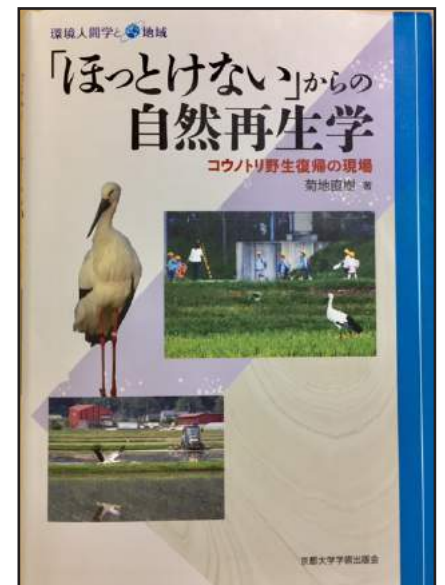
「ほっとけない」からの自然再生学

—コウノトリ野生復帰の現場

菊地 直樹 著

京都大学学術出版会 (2017年) 3,672円

著者は兵庫県豊岡市で進められている絶滅危惧種コウノトリの野生復帰プロジェクトに、研究者として、実務者として長年取り組んできました。コウノトリの生息環境は、水田や里山など人の生活の場と重複しています。コウノトリが絶滅したのは「人と自然のかかわりの変化」によるところが大きく、野生に戻そうとすれば「人と自然のかかわりを創り直して行く」ほかないと著者は語ります。このプロジェクトは自然再生事業の成功事例です。生息地保全では放棄水田を餌場として再生し、無農薬の農産物をブランド化するなど、コウノトリの生息拡大につなげる環境創造型農業を実現し、持続可能な地域づくりを展開しています。著者が自然再生の現場でよく聞く住民の声、「だって、ほっとけないでしょう」が書名になりました。知床で40年前に始まった森林再生の取り組み「知床100m運動」も、乱開発の危険がせまる開拓跡地を「ほっとけない」思いで、地元と全国の人達が立ち上がりました。これからの自然と人との共存のあり方を考えさせられる一冊です。(中川 元)



■ 公式ブログをぜひご覧ください！

当財団ホームページ内のブログで、さまざまな話題をお知らせしています。

知床に関わりのある人を紹介する「Interview」、知床の地域資源を紹介する「シレットコってどんなトコ」のほか「ワイルドライフマネジメント News」、「知床コラム」の4つのカテゴリに分けて、1～2週間に1回の頻度で更新しています。ぜひご覧ください！



ブログはこちら ▶

<http://shiretoko-u.jp/category/blog/>



<過去の話題>

【Interview】

- ・笠井文考さん（ネイチャーガイド）
- ・早矢仕有子さん（北海学園大学教授）
- ・梶光一さん（東京農工大学農学研究院教授） など

【シレットコってどんなトコ】

- ・世界自然遺産について
- ・漁業について（斜里編、羅臼編）
- ・農業について など

【ワイルドライフマネジメント News】

- ・シンポジウムやフォーラムのお知らせ など

【知床コラム】

- ・知床のカワウソウ北海道で最後の記録ー
- ・知床は北の果て？
- ・うれしい流氷の接岸と悲しい油の漂着 など

■ 知床ネイチャーキャンパス 2017 の 実習動画を公開しています

2017年9月30日～10月2日に開催した「知床ネイチャーキャンパス 2017」の実習動画を You tube 上で公開しています。

(当財団のホームページからもご覧いただけます)

<http://shiretoko-u.jp/2017/03/06/jlssyuudouga/>

実習動画はこちら ▶



■ 知床ネイチャーキャンパス 2018 を開催します！

2018年度も、知床を舞台に講義や実習、ワークショップを通じて野生生物保護管理を学ぶ「知床ネイチャーキャンパス 2018」を9月に開催します。6月頃より受講生の募集を始める予定です。テーマや講師、プログラムなど詳しくは、募集チラシ、ホームページ、SNS などでお知らせいたします。

■ 理事会報告

平成 29 年度第 3 回理事会

開催日時：2018 年 3 月 11 日（日）午後 1 時より

開催場所：斜里町ゆめホール知床・会議室 2

- 決議事項
1. 「平成 30 年度（2018 年度）事業計画（案）」承認の件
 2. 「平成 30 年度（2018 年度）収支予算（案）」承認の件
（資金調達および設備投資の見込みを含む）

- 報告事項
1. 代表理事・業務執行理事の業務執行報告
 2. 賛助会員の加入状況・募金の状況
 3. 「知床ネイチャーキャンパス 2017」の開催結果報告
 4. 「知床ネイチャートーク 2017」の開催結果報告
 5. 「首都圏賛助会員・支援者の会」の開催結果報告
 6. 札幌圏賛助会員集会「札幌シャチの会」の開催結果報告
 7. 活動助成金の申請について

- 協議事項
1. 知床ネイチャーキャンパス 2018 の開催計画について
 2. 今後の事業展開について



■ 計画策定専門委員会報告

平成 29 年度第 1 回計画策定専門委員会

開催日時：2018 年 3 月 16 日（金）午後 1 時 20 分より

開催場所：札幌市産業振興センター（札幌市）

出席者は委員 9 名、オブザーバー 1 名。

知床ネイチャーキャンパス 2017 の開催結果をもとに、その評価と課題の検証を行いました。それを踏まえた 2018 年度のネイチャーキャンパスの開催内容や、3 年間の実践を踏まえた教育プログラムの整理とカリキュラム策定について意見交換。実践成果の活用と、教育機関実現へ向けた行程についての検討も行いました。



知床自然大学院大学設立財団は、 活動を支援して下さる **賛助会員、寄附金** を募集しています

■賛助会員とは

この財団の目的に賛同する個人・団体・法人が会費を通じて支援するものです。

■会員の年会費

個人会員：5,000円

団体会員：10,000円

法人会員：20,000円

法人特別会員：100,000円

※年度ごとの納入となります。

■加入申込み方法

「申込書」と「郵便振替用紙」をご使用ください。これらは当財団ホームページからプリントアウトできます（入金 は右記口座への入金でも受付しています）



知床自然大学院大学設立財団ホームページ
賛助会員・寄附金募集ページ

■賛助会員の特典

当財団のニュースレターや絵はがき、講演会やネイチャーキャンパス等の案内情報を優先的にお送りします。

■寄附金について

寄附金も随時募集しています。
賛助会員加入同様にお申し込みください。

■主な入金口座について

ゆうちょ銀行 記号 19940 (普) 10138691
(※他の金融機関から 店名九九八 番号 1013869)
北洋銀行斜里支店 店番 452 (普) 3119440
北海道銀行斜里支店 店番 904 (普) 0530326
網走信金斜里支店 店番 003 (普) 0284957
大地みらい信金羅臼支店 店番 003 (普) 1072873

オンライン寄付サイト「Give One」
からもご支援いただけます！



※「gooddo」のクリック支援終了について

毎日のクリックが当財団の支援金にかわるソーシャルグッドプラットフォーム「gooddo」ですが、2018年1月28日をもって、クリック支援機能が終了しました。支援額は合計72,629円になりました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。その他の機能は継続されていますので、引き続きよろしくお願いたします。

設立財団ニュースレター 第14号

発行 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団

〒099-4117 北海道斜里郡斜里町青葉町 28-10

TEL 0152-26-7770 FAX 0152-26-7773 E-mail sizendaigaku@wine.plala.or.jp

Web <http://www.shiretoko-u.jp>

発行日 2018年3月31日